

IV 学識経験者（外部評価者）の総評

1 はじめに

昭和 22 年に作成された教育基本法だが、時代は大きく変わるとともに国際社会での日本の立ち位置も変化し、平成 18 年に 60 年ぶりに改正された。

津山市においても、平成 24 年に「津山市教育振興基本計画」を策定し、平成 24 年度からの 5 年間の進むべき将来を示している。

ここで行う点検評価は、基本計画 2 年次の事業執行について行うものです。

2 点検評価

(1) 個の確立とつなぐ力を育む【学校教育】 評価 B (ほぼ達成)

この項目では昨年に続き評価 B が多く、県下・全国平均に今一つの段階で、課題の困難性と重要性を感じる。

よって、上記の基本計画に基づき、平成 25 年に学校関係者により「津山市学校力向上推進プラン」(25 年度～28 年度) が策定され、以下の具体的施策を重点取組として取組を強化している。

＜今後求められる「確かな学力」の向上＞は、昨年 C (概ね達成) から A (達成) に向上した。上記プランに基づき、すでにある学力調査に加え津山市独自の調査も行うとともに学校の校内研究体制を強化するなど、重点的に取組んだ結果、県の学力調査により県平均を上回った。

＜学校の教育力の向上＞は小・中学校連携事業など、施策が多種多様にわたり、新たな取組も加わり具体的に進んでいることがうかがわれる。

＜家庭の教育力の向上＞では、家庭と連携し家庭学習 0 時間の児童生徒がなくなることを目指している。結果はすぐには出ないようだが、家庭と連携を強めて継続してほしい。

上記 2 項目に加えて、＜問題行動の解消に向けた取組の充実＞は評価が B と昨年から上がっていないが、着実に継続実施することが大切だ。

(2) 身近な人々のつなぐ力を育む【家庭・地域教育】 A

全体では、《相談支援体制の整備と社会参加の促進》が B から A になり、B がなくなった。

＜支援体制の整備と社会参加の促進＞は、ニートやひきこもり等の義務教育終了後の青少年の社会参加に向けて取組を強化し、評価は昨年の B から A に上がった。地道な取り組みだが、関係者の連携と事業継続が重要と感じた。

＜学びの推進＞(A) は、事業内容は昨年と同じだが、今後の取り組みとして、「公民館を活用した津山市連携型家庭教育支援事業」を進め、学校・家庭・地域の連携を強めるとしているが、その効果を期待したい。

(3) 過去から現在、未来へつなぐ力を育む【生涯学習・スポーツ・文化】 A

この項目では、スポーツ部門・文化部門に B が散見される。

生涯学習では、平成 22 年に第 3 次津山市生涯学習推進計画が策定されている。現状分析・推進構想・推進計画からなり、ここでも課題を明確にしながら、具体的施策

が計画、実施されている。

＜学習機会の提供と支援体制＞（A）では、リクエスト大学の利用者が 15,000 人という数字は、行政への理解と、市民参加への糸口であると感じた。人づくり・まちづくりの視点からの社会的課題や現代的課題解決のための「必要学習」の一つ。

＜持続可能な地域づくり＞（A）では、生涯学習人材バンクの登録者数も増加しているが、目標には遠いがその活用は重要である。公民館は家庭教育支援事業も行っており、地域コミュニティの拠点としての機能充実が期待されている。

＜競技スポーツの専門的指導者の育成・支援＞（A）は、昨年度は評価Bであった。ソフトボール等の専門種目の研修会が開催されるなど、新たな対応が始まった。

＜学術研究の成果に基づいた学習機会の提供＞（B）は、「実施結果と成果」の記述で積極的に取り組む姿勢が示されているが、研究体制の構築と予算削減のため企画展開催などできにくくなって、市民の期待に応えにくい窮状がうかがわれる。ここでは洋学資料館を中心に書かれているが、文化行政全体に言えることではないか。市政のなかでの文化行政の位置づけを議論して、向後の市民の文化活動に支障が起こらないよう検討いただきたい。

（４） 個の確立とつなぐ力を育む【幼児教育】 A

＜幼児教育の質の向上＞（A）は、新たに「津山市における就学前教育・保育カリキュラム」の活用が始まるとともに、幼稚園の全園学校評価が実施できたことは評価できる。

＜環境の整備＞は昨年のAからB評価へ下がった。施設の老朽化対策について先延ばしになっているが、幼稚園の将来像とも関連しているのかもしれないが、一定期間のうちに将来計画を明確にしてほしい。

3 おわりに

全体での評価は、A＝95%以上達成・全体の 75%（昨年 63%）、B＝80%以上達成・25%（昨年 35%）、C＝60%以上達成・0件（昨年 1件）、D＝60%未満・0件（昨年 0件）であった。全体に評価は上がっている。

多くの部門で、基本構想に加え、具体的施策の計画を策定しているが計画が具体的であるほど評価は厳正になり、反面各事業の効果は期待できると感じた。

また、基本構想段階では、広く関係者や市民の意見を取り入れることが、市民参画であり、ひいては施策が真に市民のためとなるという最終目的に合致するのだろう。

なお、説明に具体性が欠け理解しにくい事業があった。市民に見ていただくという精神で、できるだけ具体的に記述していただきたい。

1 全体を通して

平成 24 年度に策定された『津山市教育振興基本計画～つなぐ力～』は、津山市の教育課題に対応して進むべき将来の姿を明らかにし、5 年間で重点的に取り組むべき施策を示しています。就学前・義務教育、家庭教育、社会教育の各分野で基本方針や推進計画を策定して取り組まれていることがよく分かりました。事務の管理・執行の状況について点検及び評価を行い、『津山市教育振興基本計画』における年度ごとの重点施策の進捗状況を明らかにして、市民に対する説明責任を果たすことは良いことだと思います。限られた予算の中で効果的な運用をされていることもよく分かりました。

全 128 項目に及ぶ自己評価の中には、少し甘いのではと思われる評価も見られましたが、概ね納得のいくものでした。項目の中には、「成果と課題」の文面が前年度と同じものがいくらか見られたのは少し残念でした。今後の課題と方向性に示された内容が次年度の取組に生かされるようにお願いします。

また、達成率については、実績が現状値と目標値の開きと比較されている項目と、実績が目標値と比較されている項目がありましたので、算出方法を統一した方が分かりやすいと思います。評価にあたっては、見える数字に目が行きがちですが、年度ごとの数値に一喜一憂することなく、少し長い目で見た向上を目指す必要も感じます。

2 項目の点検・評価について

- 教育委員会だけでなく関係部署間の連携が図られていることは良いことなので、今後ますます進めていただきたい。
- 教育にお金をかけることは将来への投資と考えます。子どもたちの学習環境整備のために、弾力的な運用による 35 人学級や各種の非常勤の配置がされていることは有難いことです。時間増や常勤化に向かうことを願っています。
- 学力調査の結果や問題行動の数値は市民の関心も高く、重要なことです。標準学力調査や Q U 検査等の導入により、授業改善や生徒指導などの取組は進んできていると思いますので、年度ごとの数値に一喜一憂することなく、年度を越えて取り組んでいって欲しいです。
- 校務用パソコンの整備ができたので、個人情報管理とともに、校内 LAN 等の環境整備や全市的な学校間ネットワークの構築を進めていただきたい。
- それぞれの部署が課題の克服に向けて取り組んでいることは大変評価できますが、学校や児童生徒の過重負担にならないようにお願いします。
- 「津山市特別支援教育推進センター」の設置により、教育相談や支援体制が今後ますます進んでいくものと思います。子どもたちが落ち着いて学習に取り組めるようになることを願っています。また、問題化しているニートや引きこもり等への支援が始まったことは評価できます。社会的自立が進んでいくよう今後の取組を期待しています。
- 市の H P やフェイスブック等による情報発信が進んでいることは良いことです。多くの市民に活用して欲しいと思います。文書による啓発には限界があります。各種の良い取組が市民が市民に広がり、市民参加が進むことを願っています。